

21 世紀の世界経済成長と国際資本移動 世界経済モデルによる分析

ミッシェル・アグリエッタ

世界の資本移動は、これまでに例を見ない様相を見せている。自らの稼ぎ以上の生活を続けるアメリカの消費者を、エマージング諸国が賄う構図である。これは、世界的に見た貯蓄配分の明らかな誤りであり、こうした状況が長続きするとは考え難い。このレポートは、INGENUE2 世界経済成長モデルを用いて、今世紀前半の世界経済の成長パターンを描こうとするものである。世界経済成長の原動力は、経済規模の大きい発展途上国が先進諸国に追いつく過程で発揮する人的資源の活用や技術力に依るところが大きい。こうした過程では、先進国の生活水準に近づこうと努力する膨大な数の人々への世代間の貯蓄移転が重要となる。モデルでは、中国とインドの素早い経済成長を前提とするシナリオと、より保守的な二つのシナリオを分析する。いずれのシナリオにおいても、西ヨーロッパ諸国および日本が、それぞれの通貨の上昇を伴いながら、構造的な資本輸出国の役割を担う。アメリカは、徐々にその貯蓄を拡大していき、良好な対外バランスを回復する。一方、人口要因によって世界経済が減速することは避けられないと予想する。